

令和4年度 GIGA校内研修 実践報告

学校名：石川県立いしかわ特別支援学校

月	研修テーマ[研修形態]	担当	関連する行事等
4月	・ICT講習会 [学校全体・リモート] ・Classroomについて ・GIGAスクールライブラリ動画視聴(ステージ1・2) [未受講者]	情報課 GIGA推進委員	
5月	・GIGAスクールライブラリ動画視聴(ステージ3) [未受講者] ・前年度の取り組みの紹介① [Teams活用・学校全体]	GIGA推進委員	
6月	・iPadの使い方や扱い(基本的な操作、保管の仕方、児童生徒の決まり等) ・ロイノート研修会 ・研修(GIGAスクール構想とは)	情報課 GIGA推進委員	
7月	・ICT研修会(前年度の取り組み②)	GIGA推進委員	

職員が非常に多いが、学期に1回は全体研修を実施できている。大切なことは全体で共有している。

中間目標 授業を受け持つ教員が、タブレット端末を利用した授業の事例を1つ(以上)取り組む(授業づくり)。

8月	・ICT研修会 [学校] ・Googleアプリ研修(ドキュメント、スプレッドシート、スライドなど)	情報課 GIGA推進委員	
9月	・校内OJT[各学部・学年] ・若プロ研(ICT活用について)	各自	
10月	・動画編集アプリ研修 ・若プロ研(Googleアプリ研修(Jamboard、Classroom、Meet等))	情報課やGIGA推進委員	文化祭
11月	・動画編集アプリ研修 ・ミニ研修(GoogleDriveでの共有や共同編集の仕方)	情報課やGIGA推進委員	文化祭
12月	・ICT研修会 [学校] ・GIGA実践報告・共有[学校・公開研究会とも兼ねる]	情報課 GIGA推進委員	公開研究会

アプリ研修やミニ研修会など、希望者による研修で苦手な人に支援する場を提供したり、発展的な内容で得意な人を増やしたりしている。

中間目標 授業を受け持つ教員が、『児童生徒』が、タブレット端末を利用した授業の事例を1つ(以上)挙げる。→実践事例を積み上げる。

1月	・校内OJT[各学部・学年]	各自	
2月	・GIGA研修(アクセシビリティ→ChatGPT、視線入力) オンライン講義、機器のデモなど ・各学部の実践事例のまとめ[共有]※予定	県事業 GIGA推進委員	
3月	実践事例の報告・次年度に向けて [学校全体] ※予定	情報課 GIGA推進委員	

目標「令和4年度末にめざすICTを活用した学びの姿」

『タブレット端末の使い方に慣れ、利用機会をさらに増やすとともに、タブレット端末や各種アプリケーションを用いた授業改善・授業づくりができるようになる。』

『児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる活用を目指す。』

ICT端末の活用が充実してきたことにより、個別最適な学びが充実してきている様子がみられている。

成果

- ・昨年度に引き続き、Formsによるアンケートを実施した。昨年度同様、ほぼ全教員がタブレット端末を授業等に利活用していることがわかり、中間目標①は達成したといえる。また、「児童・生徒が、1人1台端末を使った授業を1回以上実践した」と答えた教員がおよそ9割に達した。中間目標②は、授業を受け持つ教員が、『児童生徒』が、タブレット端末を利用した授業の事例を1つ以上挙げる(実践事例を積み上げる)ことであった。調査では、回答者の約9割の教員が1人1台端末を児童生徒が使った授業を挙げており、実施した教科・領域、児童生徒が利用したアプリや機能も多岐にわたっている。昨年度と比較して、児童・生徒がタブレット端末を活用する授業づくりがより進んできている。
- ・情報担当(課)やGIGA推進委員等が連携し、各種研修や実践の発信・共有を進めることで、タブレット端末の操作や効果的な使い方(授業づくり)について、教員の資質・能力の向上、また、全体的な底上げが成されたものと考えられる。各学部や学年に、タブレット端末・アプリや機能を活用できる教員が増え、実践事例も積みあがってきたことで、校内OJTといった形も機能していると考えられる。
- ・Classroomによる授業等の取り組みの発信、ロイノートの利用者(校内での教室数)も増えてきている。
- ・書字や発話等のコミュニケーションが難しい児童生徒でも、タブレット端末を活用することを通し、文字入力や写真、成果物(デジタル教材自体、作品、スクリーンショット等)で、本人なりに表現することができるようになったことが、児童生徒の深い学びへつながったといった事例が増えた。1人1台端末の利活用は、思考や表現のための支援として効果的であるということが浸透してきた。

課題

- ・今後、小中高の教員を縦割りにして、実践を共有する研修を実施する予定であるが、他学部や学年の実践を知る、参考にできる機会をより増やす必要がある。
- ・実践事例を広めるだけでなく、学部学年を超えて活用できそうな各自が作成したデジタル教材やタブレット端末を使った活動を集約し、共有、周知していくことで、さらに授業づくりや改善の参考になると考えている。その効果的な方法について検討する。
- ・ICT支援員が導入され、機器やアプリ、機能の相談をしたり助言をもらったりすることができたが、今後はサブとして授業に入ってもらう等、ICT支援員のさらなる「授業づくりへの」活用を進められるような方策を考える。
- ・授業づくり研修のほか、端末(ハード面、ソフト面)の適切な管理の仕方、情報モラル教育などをいつ、どのように指導していくかを入れた研修を計画する。